

令和2年度MDASHプログラム 自己点検・評価について

| 自己点検・評価の視点 | 評価 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|--------------|--|
| 学内からの視点 | | |
| プログラムの履修・修得状況 | 極めて良好 | 本教育プログラムは必修科目を中心に構成されており、学生の履修・修得状況は極めて良好である。教員は、学生の履修状況、講義における各回の出欠管理、成績の確認、単位修得状況をLiveCampusコミュニケーションポータルシステム(教務情報システム)により、随時、確認できる。また、同システムにより、履修学生も、自身の出欠状況、単位取得状況、各種要件の確認が出来る。また、各授業の各回における内容の確認や進捗状況については、eラーニングプラットフォームMoodleシステム(九州工業大学学習支援サービス)を通して行うことが出来、全学的な体制が整っている点でも極めて良好である。 |
| 学修成果 | 極めて良好 | 全学的に整備された学修自己評価システムでは、学生の履修した科目から設定された目標に対する達成度を可視化するとともに、学生生活を客観的に記録することで学生の学修意識と自己管理能力を高め、将来像を明確化することを実現している。同システムでは、履修学生は各学期における成績平均、修得単位数、GPA等を確認することができる。さらに、学生自身が立てた学期における目標と学修達成度評価に対して、定期的に担当指導教員がフィードバックを返すことで学修成果の把握・確認を行っている。令和2年度のプログラム履修学生の同システム利用率は83%に達しており、学修成果を視覚的に確認することも出来、極めて良好である。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | 極めて良好 | 学修自己評価システムを利用して、当該授業が開講されたクォータ末または学期末に授業アンケートを受講者全員に対して実施している。アンケートでは、授業内容の理解度や授業の到達目標に対する達成度、満足度等を調査している。アンケート結果は、各授業担当教員にフィードバックされ、これにより学生の内容の理解度を把握している。また小テストや演習、定期試験やレポートを実施することでも、学生の理解度を把握することができる。令和2年度の学生アンケートでは、本教育プログラムの98%以上の科目について、授業内容を理解し、授業の到達目標(目的)を達成することができたとの回答が得られ、学生の内容の理解度も高い結果となっており、極めて良好である。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | 極めて良好 | 個々の授業に対して学生アンケートを実施し、その結果に基づく教員の表彰制度がある。本教育プログラムを構成する授業科目が選ばれた場合は、本教育プログラムのHPで公表し、受講を推奨しており、極めて良好である。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 極めて良好 | 本教育プログラムは、学部・学科の必修科目を含むなどで卒業要件を満たせばプログラム修了要件を満たすような構成になっているため、いずれの学部でも履修率が100%となっている。 |
| 学外からの視点 | | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | 修了生なしのため該当なし | 教育プログラムの修了生はまだいないが、全学組織であるキャリア支援センターと、工学部における戸畑キャリア支援室、情報工学部における飯塚キャリア支援室が連携して、全卒業生の進路の把握ができる体制である。また、各学部の各学科には就職担当教員と事務員を配備し、全卒業生の就職企業との面談等や企業アンケートにより、修了生の活躍状況と評価を把握できる。令和2年度は、21社とのオンライン面談を実施し、卒業生は設計・開発等の部署で活躍しており、基礎学力と工学専門分野の知識の高さを評価いただいた。また、データサイエンス・AIを含め、IT関連知識の必要性を挙げられる企業も複数あることを確認した。 |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | 極めて良好 | 教育プログラムの改善・進化のため、教育企画室のもとに民間企業の人事部門の方や企業執行部を経験された方、また企業経営者の方からなる産学連携教育審議会を設置している。本審議会では、本学が取り組む教育内容・教育改革等に対して、産業界からの意見を採り入れており、極めて良好である。実際に、「リテラシーを持つ人達がコンセプトを作りデザインもできる人材となれるように教育プログラムに盛り込んで欲しい」という意見を踏まえ、工学部では令和4年度より、低学年次学生に開講している「情報処理基礎」の科目をこれまで以上にデータサイエンス・AIの基礎力の養成に重点をおいた内容に改編することを予定している。 |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | 極めて良好 | 本教育プログラムの初年度から、工学部では「建設社会工学演習」「機械知能工学入門」「電気電子工学序論」「応用化学入門」「マテリアル工学入門」を、情報工学部では「情報工学概論」の入門・概論科目を開講し、履修学生の専門分野と数理・データサイエンス・AIとの関連や学ぶことの意義を早い段階で教授している。また、令和2年度に学内にデータサイエンス基盤研究センターを設置し、高度データサイエンティスト育成室が数理・データサイエンス・AI研究の著名な研究者によるセミナー・特別講演を企画・案内をすることで、履修学生に学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させており、極めて良好である。 |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること | 極めて良好 | 産業界から期待される数理・データサイエンス・AI教育の内容・水準については、上述の産学連携教育審議会からの要望事項を取り入れることにより維持することに加え、九州大学・熊本大学・九州地区の企業および公共団体からなる数理・データサイエンス・AI教育に関する九州コンソーシアムにおける活動を通じて、教育内容・水準の維持・向上を行っている。各クォータ末、各学期末に実施している授業アンケートにおいては、授業の進捗、使用したテキストや資料など分かりやすさ、担当教員の教え方の工夫などについて質問をしており、これらの結果を考慮して授業内容を改善し「分かりやすい」授業とすることに努めており、極めて良好である。 |